

# こおろぎ

発行日 2003年 5月 1日 No.122  
発行元 株式会社  
オリジン・コーポレーション  
代表取締役：杉井保之  
〒426-0044 静岡県藤枝市大東町777-1  
TEL 054-636-4300 FAX 054-636-6187  
E-mail origin@ck.tnc.ne.jp

## 脳の働き その1

人間の脳は、心で思っていることを実現しようと働くそうです。一つ例をあげると、私は「今年の国体で良い記録を出したい」と頭で思っていますが、心の中では「練習は大変だ」というイメージを持っています。そうすると脳は、心で思っている「大変だ」「したくない」という方向に向かって働くというのです。

ここで興味深いのが、「頑張る」という言葉です。皆さんは、「頑張れ」と言われて、どんな気持ちになりますか？ 多くの人は「頑張らなくては」と思えば思うほど、それとは逆に、「大変なこと(苦しいこと)」をイメージして、かえって続かなくなるのです。

このように、「頭」で思っていることと、「心」でイメージしていることが異なる場合、一時的に「頭」で思っている行動をしたとしても、長期的には「心」で思っている行動をしていくのです。

つまり私のように「勉強は大変なものだ」と思い込んでいる人は、実際の勉強に負けるのではなく、その思い込みに負けているのです。時々、「勉強しなさい！」と怒鳴っている親の話を耳にしますが、それは結局、「勉強を嫌いになりなさい！」と怒鳴っていることになるのです。

私のところへは、営業成績の振るわない営業マンも相談に来られますが、こうした方達のほとんどは、口では「やるしかない」と言いながら、心の中では「営業は大変だ」「出来っこない」と思っているようです。また、そんな自分を嫌っている方も多いのですが、「人には、そうした傾向がある」と知っていれば、「どうして、このドアは引き戸なんだ！」などと自分に腹を立てる必要はなく、ただ引き戸を引けばよいだけのことです。

今回は、私の引き戸の引き方を、いくつかご紹介したいと思います。

まず、「良い刺激を与えること」です。

上記のように、私はランニングの練習をさぼりがちです。そんな私はランニングの雑誌を読んだりして、ランニングへの刺激を自分に与えています。良い刺激は、心のイメージを変えてくれます。

二つ目は、「とにかく始めること」です。

つい面倒に思えることでも、実際は「始めること」が面倒なだけで、始めてしまえばそれほどではないことがほとんどです。

一番苦しい「始める前」で立ち止まらないように、準備が整わなくてもとにかく始めるようにしています。始めるきっかけがつかめない人は、他人を誘って一緒にやるのも一つの方法でしょう。

私の場合、友人と一緒に走る約束をすることで自分の走るきっかけを作ると共に、一緒に走る人から良い刺激をもらっています。

このように「人に働きかけること」も一つのコツだと思います。

これまで私が継続できたことを振り返ってみると、すべて私が人に勧め、声を掛けてきたことばかりです。

とかく契約が決まらず落ち込んでいる人は、同僚とのかかわりも少なくなり、訪問件数も減っているものです。そうしたスランプに最も良く効く薬は、「契約がもらえること」や「仕事で感謝されること」といった良い刺激なのです。そうした良い刺激は、私たちに次のやる気を与えてくれます。

もし大量の仕事をするような場合なら、それをいくつかに分けて、一つひとつがどのくらいの時間で出来るか、自分の記録に挑戦するといった「ゲーム感覚の工夫」も効果的でしょう。

こうした工夫をしない限り、「努力」や「やる気」が続かないのは自然のことなのです。どんな気持ちでも時間と共に静まっていくことは、私たちの結婚生活を見ればわかることでしょう。???

もし何でも続けられる人がいたら、その人はよほどスゴイ人が、神経症の人ですから、そんな人と比較するのはやめて、人生を楽しくする工夫と一緒にしていきましょう！

継続とは、ずっと続けることではなく、今やることです。

## 71歳の新入社員

昨年の9月、私の会社に入社した新入社員さんの年齢は71歳です。

私の会社のことを聞いていて、定年退職された後、求人していない私の会社に自分から面接に来られたのでした。

最近では、35歳を過ぎるとなかなか就職出来ないと言われていますが、私も35歳以上の方(特に既婚者)を面接するときには、必ず次の質問をするようにしています。

「あなたと20歳の方との違いは何ですか？」

「20歳の方なら体力的にも無理がききますし、将来、長く働いてもらえる可能性もあります。給与的にもあなたより安い給料で雇うことが可能だと思いますが、あなたには20歳の方以上の給料をお支払いしなくてはいけないと思っています。その分、社会に出て培った、若さに変わるあなたの魅力(価値)を教えてください。」

しかし、せっかく面接に来られながら、この質問に答えられない方が非常に多いのです。

最近では就職難と言われていますが、本当にそうなのでしょうか？

私は、決してそうではないと思います。現に71歳の方が私の会社に入社されているのです。もしかしたら、こうした質問に対する回答を培って来っていないということではないのでしょうか？

実は、私自身も会社を経営する上で、一番頭を悩ませたのはこの問題でした。

「社員さんが若いうちは肉体労働でもお金を稼げますが、体力が落ち、子どもさんにお金がかかるようになったときに、どうして給料を上げてあげるのか？」「今、一生懸命に働いてくれている社員さん達を、将来、裏切らない方法はあるのか？」

歳をとれば体力が落ちることはわかっていることです。それなのに、歳を取ったときにどうやって給料を上げるのかを考えないまま人を雇うことは、社員さんに対して卑怯だと思ったのです。

ただ、そうしたことを会社が考えるかどうかは、その会社の問題であり、自分の人生を考えることは、元来、自分の課題なのです。

皆さんは、71歳で再就職出来そうですか？

皆がそうしたことを真剣に考えたら、生き方も変わり、世の中も変わると私は思います。

## お便りコーナー

おはがきありがとうございます。

「人が不完全であることは仕方ないことで、責任はありませんが、不完全であることを認めながら、謙虚に生きようと努力しないことには責任があると思います。私はこれまでたくさんものを自分で傷つけてきたので、出来れば二度とそうしたことをしたくないと思っています。」という内容にハッとしました。私は「不完全でもいい」というところに甘えていたようです。

お元気ですか？ 私は昨年、お目にかかったときから変わることなく、子ども達の登校と帰宅を見守るだけの不毛な日々を繰り返しています。「働かなくては」という気持ちはあるのですが、何が引つかり二の足を踏んでいるのです。

生前、主人が杉井さんの研修に参加していたころ、「今の自分を変えたいんだ」とつぶやいたことがあります。人一倍働き、私や母に気をつかってくれた主人が、どう変わってしまったのか今でもすべて理解できませんが、私も今「今の自分を変えたい」と感じています。